

スピードスケート競技の説明資料

1. 協定式参加者名簿

WSJ 役員：平沢勝栄（会長）、清宮邦雄（副会長）、松本昌子（副会長）、宮沢武久（専務理事）

スピード委員会：桑野裕司（委員長）、高萩昌利

競技者：川口哲平、高萩嬉ら、高萩紗ら

奈良県連：西口信悟（会長）、高崎雷太、実本琢也

2. 競技概要

(1) 競技の主な大会と運営体制

世界大会

- ・ World Skate Games、世界選手権（一年毎で交互に開催）

アジア大会

- ・ アジア選手権（隔年開催）

国内大会（国内選考会）

- ・ 全日本トラックスピード選手権、全日本ロード選手権（WSJ 主催）

※第 70 回全日本トラックスピード選手権を令和 7 年 4 月 19～20 日に川西町にて開催を予定。
（70 周年）

(2) スピード競技種目の説明

トラックレース：200m、500m、1000m、5000m、10000m（計 5 種目）

ロードレース：100m、1 周、10000m、15000m

リレー：3000m

マラソン：42.195km

スケートクロス：チームクロス、個人（タイムトライアル形式）

(3) スピード競技の現状

世界

- ・ ヨーロッパ（特にイタリア、スペイン、フランス）や中南米（コロンビア）が競技中心地。
- ・ 新興国（インド、タイなど）の台頭が著しい。

アジア

- ・ 中国、台湾、韓国が特に活発。
- ・ 韓国では国体競技としての採用。中国では屋内施設の整備が進行。

日本

- ・ 東京、愛知、兵庫での大会が活発。

- ・ 国際基準の施設整備が課題であり、競技人口の増加や環境整備が急務。

3. 将来像

今回、国内初となる国際基準のオーバルトラックが整備されることで、以下の活用を想定しています。

1. 国際大会の開催拠点

- ・ 国際基準を満たすことで、アジア大会や世界大会の国内開催が可能となり、競技振興と地域の活性化につながります。

2. 海外との競技連携

- ・ アジアをはじめとする競技強国との交流試合や合同トレーニングを実施し、日本選手の競技力向上を図ります。

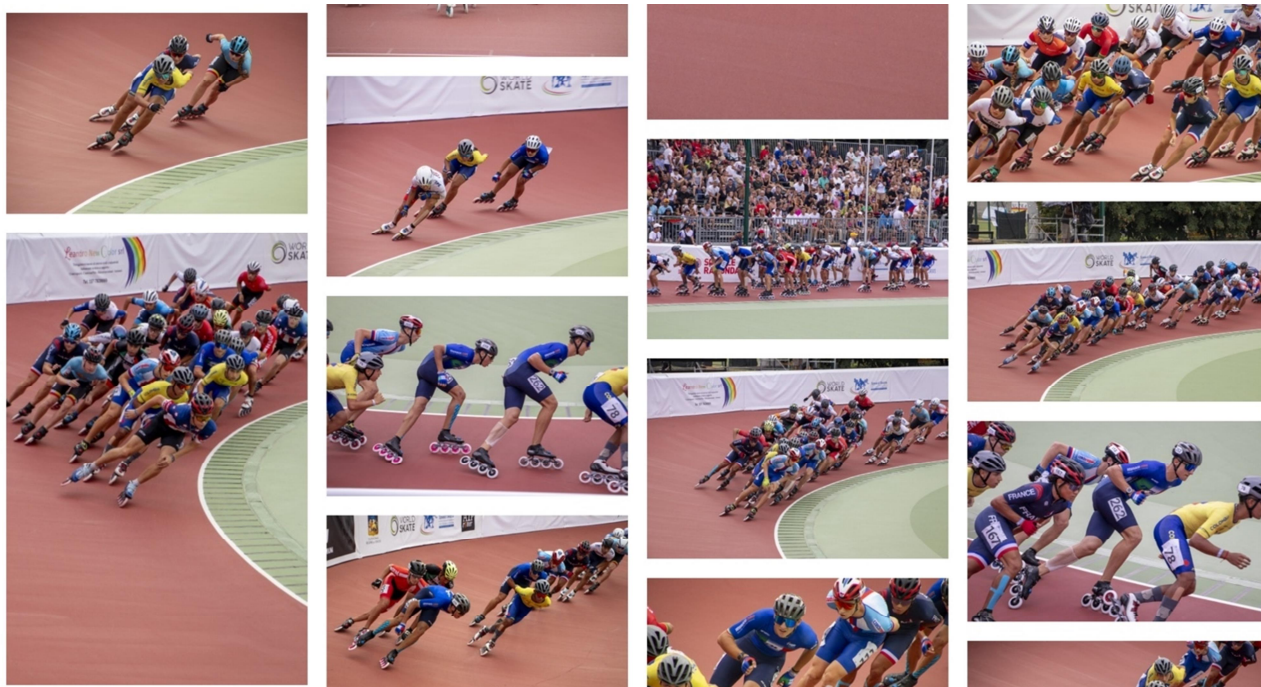
3. 選手育成の強化

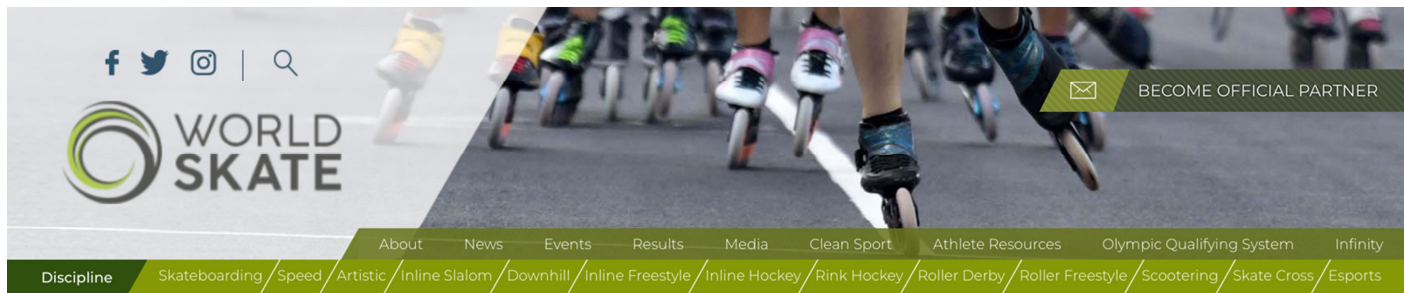
- ・ トラックを活用したジュニア育成や国内大会の開催により、次世代の国際大会で活躍する選手の育成を目指します。

4. 地域住民への貢献

- ・ スポーツ施設として地域に開放し、競技体験やイベントを通じてスケート文化を普及させます。

これにより、本施設が国内外での競技発展の中核となることを期待しています。





4. その他

ワールドスケートが主催するローラースポーツの競技数は、現在 13 種類です。以下の競技が含まれています：

1. スケートボード
2. インラインスピードスケート
3. アーティスティックスケート
4. インラインスラローム
5. ダウンヒルスケート
6. インラインフリースタイル
7. インラインホッケー
8. リンクホッケー
9. ローラダービー
10. ローラーフリースタイル
11. スクーター競技

さらに、「12. スケートクロス」や「13. e スポーツ」も取り上げられており、新しいスタイルのローラースポーツも注目されています。

World Skate Games ITALIA 2024 ： インラインスケート、ローラースケート、スケートボード、スクーターの全てのローラースポーツが集約して行われ、大会全体の参加選手数は 12,000 人、参加国は 90 カ国を超える大会となりました。

そのうち、スピードスケートの参加国と人数について、

- ・ 参加国： 58 か国が参加
- ・ 選手数： 500 名以上が出場